

## 24) 手術中に心室細動をきたした 2 症例の検討

永田 幸路・羽柴 正夫 (県立中央病院)  
麻酔科

症例 1: 64 歳, 男性. 膵癌で膵十二指腸切除が予定された. 心疾患はなかった. 麻酔は笑気とイソフルレンに硬膜外麻酔を併用した. 後腹膜リンパ節廓清の頃より持続的な出血を認め, 血圧低下, VT から Vf となった. 心マッサージ, リドカインと  $\text{NaHCO}_3$  の静注, 除細動で洞整脈に回復した. この間の出血は 900ml/h であった. 症例 2: 62 歳, 男性. 胆道癌で肝膵十二指腸切除が予定された. 心電図: 左室肥大, ST-T 変化. 心エコー: AR II 度. 麻酔は笑気とイソフルレンに硬膜外麻酔を併用. 術中 VPC が多発した. リドカインは無効で, VT から Vf となった. 除細動を施行し洞整脈に回復した. 症例 1 は出血による血圧低下が, 症例 2 は心疾患が心停止の原因かと思われる. 麻酔中には不整脈をきたす諸因子の排除と十分なモニタリングが重要であり, 重篤な不整脈をきたした場合には迅速な処置が必要である.

## 25) 自然気胸の手術後に認められた再拡張性肺水腫の 1 例

西村 喜宏・丸山 正則 (新潟市民病院)  
渡辺 逸平・海老根美子 (麻酔科)

自然気胸などで長時間虚脱していた肺を急速に再拡張させた際に肺水腫の発生する場合があることが知られている. 今回われわれはこのような再拡張性肺水腫を経験した. 症例は 49 歳の男性で, 自然気胸により肺が虚脱してから 7 日経過した右肺の肺嚢胞切除術施行直後の再拡張で発症した. 幸いこの症例は 2 日間の人工呼吸管理により治癒した. 再拡張性肺水腫の予後は一般に比較的良好のようであるが, それは胸腔ドレーンによる持続吸引という医療行為後に発症するため, 医師により早期に診断, 治療されるためと思われる. 再拡張性肺水腫は, 今までに死亡例も報告されており, 急速に発症しかつ進展するため, その早期診断に基づく早期対応が臨床にきわめて重要であると思われる.

## 26) 心不全患者に発症した上腸間膜動脈閉塞症の術中・術後管理

海老根美子・丸山 正則 (新潟市民病院)  
渡辺 逸平・西村 喜宏 (麻酔科)  
小田 弘隆 (同 循環器科)

急性腸間膜動脈閉塞症は, 重篤な循環不全を伴う予後不良の急性腹痛であり, 術中・術後管理に難渋する. 我々

は, 心房細動, 弁膜症, 虚血性心疾患, うっ血性心不全を伴った上腸間膜動脈血栓症患者の術中・術後管理を経験した. 麻酔に際しては, 循環器に対する影響が少ない麻酔薬であるミダゾラム, フェンタニル, ベクロニウムを選択した. ショックの治療には, 通常大量輸液が必要だが本症例では心不全を合併していたため, 術中・術後に, 肺動脈圧, 肺動脈楔入圧, 心拍出量をモニターしながら, 輸液量調節, 利尿剤, カテコラミン, 血管拡張薬の使用, 人工呼吸による呼吸管理を行い, 状態の改善を得ることができた.

## 27) スライド用麻酔表作成プログラムの紹介

丸山 正則 (新潟市民病院麻酔科)

我々麻酔科医は学会発表に際して麻酔表のスライドを提示しなければならないことが多い. 発表の期限がせまった状況下で複雑な麻酔表のスライド原稿を描くのは容易ではない. 一方 CRT の画面をスライド写真に撮るのは画面にライトが映ったり, 直線が歪んだりして我々素人にはうまく映すことは困難であった. ところが最近 CRT 画面をポラロイドスライドに撮る装置が開発発売され, 短時間での CRT 画面のスライド化が可能になった. そこで数値入力により麻酔表を画面に作成するプログラムソフトを作ったので紹介する. 麻酔表は時間軸も, 血圧脈拍数も症例ごとに異なっており, 個々の症例に応じて強調したい部分も異なっている. したがってプログラムはこれら種々の場合にに応じられるよう可能な限り, 汎用性を持たせたものとした. 急場の麻酔表スライド作成に非常に有用である.

## 28) 呼吸関連神経活動に及ぼすエンフルレン, イソフルレンの影響

増田 明・榎 彰  
畠山 登・桐山 昌子 (富山医科薬科大学)  
久世 照五・伊藤 祐輔 (麻酔科)  
武田 龍司 (同 薬理学)

無麻酔除脳ネコでエンフルレン, イソフルレンの呼吸関連神経活動に及ぼす影響を検討した.

エンフルレン, イソフルレン 0.5 MAC あるいは 1 MAC の吸入により PN, RLN activity は抑制された. エンフルレンは終末呼吸炭酸ガス濃度を变化させた場合においてもイソフルレンに比べ, より強い抑制を示した. この実験モデルから見て, エンフルレンはイソフルレンより強い呼吸抑制作用を持っていると考えられる.

またイソフルレンは  $\text{Ti}$ ,  $\text{TTOT}$  を短縮させたが,